



# 会報

No. 29

—53. 2. 1—

## みやま文庫

### 読むことから書くことへの誘い

萩原 進

私の日記は小学校のときに始まっている。会員のみなきんの中にも、日記をつけている方は相当いると思うし、今年から思いつけ始めて、三日坊主で終わってしまった人もあろうかと思う。たしかに、日記を毎日書くということは億劫(おっくう)であるが、人間の生涯の中で、話すことと書くことは非常に深い意味をもっているが、話し上手の人は多いしまた出版書の中にも話し方の本がいくつか出されている。

ところが、いざ文章を書くとなると、相当の人でもペンが進まないと訴える人が多い。しかし、書き方の本という

ものは極めて少ない。論文の上手な書き方といった図書は目につくが、そう多くはない。いわゆる小説などの書き方を示した内容であって、自分の思うことを書くというものは書き方の本を読んだだけでできるものではない。もっと大切な要因があることに気づいていない。

私がペンを抵抗もなしにとれるようになったのは、毎日の日記の習慣があずかって大きいと今でも思っている。もう五十冊を超えた日記をみると、およそ他人に公開できるものではないが、自分にとっては生きた証(あかし)となっていることはたしかである。その延長があってもなくてもよいような数多くの著書となった。ところが、書くためには読むことが当然起きてくる。「読書」という熟語は、正しくは「書を読む」ことであるが、同時に「読んで書く」という意味のあることを私なりに独断できめている。

一冊の本を読むとき、調べる必要があったとき最も真剣に読む。いかなれば書くために読むという読み方があるはずである。地方史、地方誌がさかんに出版されるようになったが、みやま文庫はその中で総合された企画としてあらゆる分野を含まうとしている。ぜひ読む者から書く者へというコースを執ってほしい。読むことと書くことの中でも特に書いてみてほしい。そしてみやま文庫を会員の書く広場にまで活かしていきたいと思う。

(編集委員長)

### みやま文庫懸賞原稿応募規定

- 1 募集原稿
  - (1) 郷土群馬に関する未発表の著作(みやま文庫に向くもの)
  - (2) 内容は高等学校卒業程度の学力で理解できるもの。当用漢字新かなづかいを原則とする。
  - (3) 執筆は個人でもグループでもよい。
- 2 応募資格 みやま文庫会員(応募の際に入会も可)
- 3 宛 先 みやま文庫事務局
- 4 入 賞 毎年3月31日切6月末発表
- 5 入 賞 賞金十万円
- 6 枚 数 (みやま文庫として刊行する)
- 7 考 査 400字詰原稿用紙350枚程度
- 8 他 入 賞 作品を刊行する場合は編集委員会にて加訂を求めるともある。

### 「上州の街道」頒布

さきに再版いたしましたシリーズ「上州の街道」(既刊「例幣使街道」「中山道」「三國街道」「上州の諸街道」の四巻を収める)の在庫が若干ありますので頒布いたしますから、ご希望の方は代金(二、八〇〇円、郵送の場合は、二四〇円増)を添えて申し込み下さい。

### ○浅春抄○

- 浅春や崖観音の祈願総馬  
 強風風に退任の許も飛はさる  
 児に聞かす話いろいろ春の風邪  
 肩越しに見惚れし雛のすぐ売れし  
 梅咲くやバスより小さき待合所
- 勅使河原 蛸草  
 土屋 敏 夫  
 松田 つたえ  
 豊田 よしを  
 木村 柏 好

「群馬俳句歳時記」より

〒370 前橋市城東町二丁目三の三  
 群馬県立図書館内

### みやま文庫事務局

電話前橋三二局二〇〇八番  
 振替東京四十一四二五九番

## ◆ 五十二年度の配本

本年度も刊行が大変おくれ、ご迷惑をおかけしておりますが、今回配本の「図書館の窓から」について、次の二冊を準備中です。ご了承下さい。

### ○ 群馬の民話

県内各地に語りつがれて来た民話の集成。井田安雄氏ほか執筆。

### ○ 暮鳥、拓次・恭次郎

朔太郎以後の、郷土における代表的な近代詩人の評伝と作品鑑賞。和田義昭氏ほか執筆。

## ◆ 五十三年度の配本アラ、

五十三年度の配本については次の四冊を企画、それぞれ執筆をお願いしております。ご期待下さい。

### ○ 利根源流の自然

利根源流は日本随一の豪雪山岳地帯であり、国土に残された数少ない原生自然地域である。その自然を解明するため、一九七五年から三次にわたって行なわれた奥利根地域学術調査隊の地形・地

質・動物・植物に関する記録。執筆小林二三雄氏ほか。

### ○ 鬼城・零余子

郷土における近代俳句の先駆、村上鬼城と長谷川零余子二俳人の評伝と、その作品を鑑賞する。中里昌之氏の研究に成るもの。

### ○ 近世上毛雅人画像集

近世における上毛文芸の発達はまことにすばらしいものがあつたが、当時の版本にのこされたおよそ四百人の上毛俳人狂歌人等の画像と作品をあげその出身を示す。篠木弘明氏編。

### ○ 群馬の古墳―その分布と構築

本県は古墳県である。その数は一万基に及ぶと言われる。古墳文化が古代の群馬県に何をもたらしたか。その基礎的な知識を集める。松島栄治氏ほか執筆。

本会に対するご註文、刊行書についてのご希望、ご感想など皆さまのこゑをお寄せ下さい。

## ◆ 五十三年度会費(改訂)の納入

五十三年度の会費については前号にも予告いたしました。左記のように改訂になりました。刊行書のより充実をはかるためのやむを得ない情勢について何卒ご了承下さい。

なお納入については、会費制によって維持されている本会の趣旨をご理解いただき、早期納入についてご協力下さるようお願いいたします。

振替用紙を同封いたしましたので利用下さい。

普通会費 二、八〇〇円  
郵送会員会費 三、四〇〇円(送料加算)

## ◆ 住所・勤務場所等の異動の連絡

例年四月期には、会員の方々にも住所、または勤務場所等の異動が多くみられますが、配本、連絡等に直接関係のある事項に変更のありました場合はお忘れなようご一報下さい。

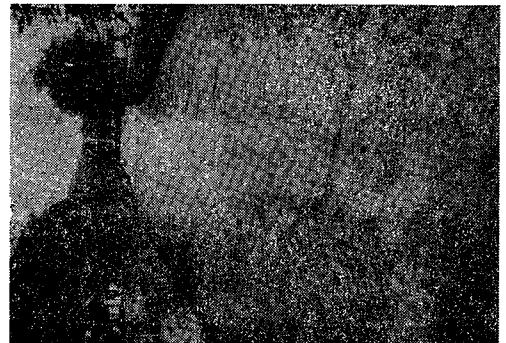
連絡がありませんと、当方よりの連絡の不達や配本の混乱、遅延等を招きますので何卒ご協力下さるようお願いいたします。

## ◆ 事務局の移転(予告)

本会の事務局は、創立以来県立図書館内におかれておりますが、このたび県立図書館の新館が竣工(県民会館前)の運びを見、その移転とともに、四月中に左記場所へ移転の予定でありますのでお知らせいたします。

記

弘前藩市日吉町一丁目一四の八  
県立図書館内  
なお電話番号は従前どおりです。



(現在の図書館の前を流れる広瀬川)